



都 高 第 1 7 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

今治市長 越 智



意見・提案の提出について

平成20年9月19日付 国道企第37号にて依頼のありました「今後の道路行政についての意見・提案の提出について（依頼）」について、別紙のとおり回答いたします。

本年５月に、道路特定財源を平成２０年度から１０年間維持する「道路財政特別措置法」が成立しましたが、一方では「道路特定財源等に関する基本方針」が閣議決定され、道路特定財源制度は平成２１年度から廃止し、全額一般財源化することとなっており、道路特定財源の延長期間は実質本年度の１年限りとなりました。

上記の基本方針においては、「地方財政に影響を及ぼさないよう措置する。また、必要と判断される道路は着実に整備する」と明記されているものの、方針どおりに来年度から全額一般財源化されることになると、道路整備に充当される予算額は大幅に減少することが予想され、道路整備の遅れている地方にとりましては非常に深刻な問題であります。

地方にとって「道路」は、まちづくりにおいて基本となる施設であり、道路を中心にした計画が策定されているものでありますが、今後、道路財源が不透明または流動的な状況が続くようであると、計画的なまちづくりを行うことができず、計画の変更や縮小、先送りをせざるを得なくなり、市民生活にとって大きなマイナスとなることは確実であります。

道路特定財源については、道路整備に充てるという目的のもと本則の２倍の税率が設定されているものであるため、確実に道路整備関連予算が確保できるよう法整備を行うとともに、地方の財政運営に支障が生じないように、国の責任において確実な財源の措置をお願いしたいと考えております。

②—1 地域の現状と抱える課題

愛媛県今治市

○現状

今治市はノルウェーのオスロやギリシャのアテネにも匹敵する造船と海運産業を中心とした海事関連産業の集積地であり、また古くから海にまつわる歴史や文化と共存していることから、「今治海事都市構想」を立ち上げ、海に拓けたまちづくりを進めております。

また、海事都市や中心市街地を補完する拠点として、今治インターチェンジ周辺地区において新都市開発整備事業を進めており、流通・産業関連企業の誘致を行い、産業と雇用の創出に努めるほか、住宅系用地の分譲や福祉施設・研究機関の立地を推進し、均衡のとれたまちづくりを目指しております。

○課題

今治市は、市の中心部を来島海峡が横断するという特異な立地にあり、市街地、島嶼部、中山間地を擁する多彩な地域に18万人の市民が暮らす、四国第5の大きな都市であります。

今治市における道路交通ネットワークの大動脈は、平成18年4月に全線供用開始した西瀬戸自動車道(しまなみ海道)と松山自動車道とを接続する今治小松自動車道ですが、今治小松自動車道については、現在、今治インターチェンジから今治湯ノ浦インターチェンジ間が未供用であるため、当路線と一体的な事業である新都市開発整備事業の整備効果が発揮されておられません。

また、両インターチェンジ間を結ぶ一般国道196号今治バイパスは、一般市民の車と高速自動車道からの車が集中するため、慢性的な渋滞が発生しており、時間的リスクが大きく物流面において大きな弊害となっております。

②—2 地域の目指すべき将来像

愛媛県今治市

今治市にとりましては、今治小松自動車道と西瀬戸自動車道が、地域の経済・産業及び市民生活にとっての大動脈となります。今治小松自動車道が供用開始され西瀬戸自動車道と接続し高速交通ネットワークが整備されることにより、運送コストの軽減や時間短縮が可能となり、多種多様な業種の立地が促進され、また、タオルや縫製、瓦製造や石材加工など古くからの地場産業も活性化するものと思われます。

また、市街地と各地域とを結ぶ広域道路網の確立が図られることで、島嶼部、山間部、農村部における特色のある地域づくりが行われるとともに、人的交流、生活交流が活発に行われることを期待します。

今治市の活力の源は多彩な「ものづくり」にあり、長年にわたって培われてきた確かな技術力と生産力が市民生活や経済を支えております。

道路網が整備され運送能力が上がることによって、こうした質の高い地場産品や製品が広く全国へ流通することが可能になり、今治のブランド力を高め地域産業の活性化につながります。

それに加えて、安心して快適な生活環境が実現しまちの魅力が高まることで、多くの子供が育つとともに若い優れた人材が根づき、まちの活性化や新たな交流を生み出し、今治市がますます発展するものと思われます。

様式④

愛媛県今治市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	今治新都市開発整備事業 今治海事都市構想	今治新都市開発は今治インターチェンジ周辺に立地することで、広域交流・地域連携の拠点となるとともに、中心市街地を補完する副次核として、若年者をはじめとした人口の定着・雇用拡大などの問題解決に資する機能を重点的に配置し、今治市の活性化に結びつける事業であります。 今治市は造船業や海事産業が集積する日本最大の海事都市であり、「港を活かした産業と交流のまちづくり」として交流拠点の機能強化や高速交通体系の整備により、海事関連産業の振興と立地促進を図り、地域の活性化はもちろんのこと、日本経済を支える役割を目指しております。	